

第6期中期経営計画 令和4年度実績評価

I 推進の経過と評価の概要

(1) 推進の経過

当会社では、外部有識者である専門家を含む委員で構成する「経営計画マネジメント委員会」を設置して、経営の改善に向けた方針を明確にし、計画的な取組みを行うため、平成18年度から中期経営計画を策定するとともに、年度毎に進行状況の検証・評価も行いながら、経営の改善や効率化に努めてきた。

第1期計画（期間：平成18年度～平成20年度）

第2期計画（期間：平成21年度～平成23年度）

第3期計画（期間：平成25年度～平成27年度）

第4期計画（期間：平成28年度～平成30年度）

第5期計画（期間：平成31年度（令和元）～令和3年度）

第6期計画（期間：令和4年度～令和6年度）

(2) 評価の概要

（経営の目標）

第6期中期経営計画初年度の令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が継続したことやガソリン等の燃料価格が上昇するなど、利用者の回復には厳しい状況の中、基本方針である「安全・安心・快適な道路環境等の確保」を遂行するため、福島県と連携して計画に基づき適切な維持管理に努めた。

また、有料道路事業や有料駐車場事業の利用促進、事務経費の節減等による経営の効率化に継続して取組みを行った。

この結果、有料道路事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うまん延等防止重点措置による不要不急の外出、移動の自粛や各種イベント開催の中止等に伴い、通行台数が減少となったことから、計画目標値に対する達成率は、年間通行台数が約97.7%、年間料金収入が約99.2%となった。

（主な施策）

有料駐車場事業については、定期的な清掃や除草作業等の実施による良好な駐車場環境を維持するとともに、ホームページや現地看板への利用者募集の掲載を実施するなどの稼働率の向上に向けた取組みを行った。

また、経営の効率化については、嘱託職員の雇用の継続による人件費の削減や事務経費の節減等、計画に沿った取組みを行った。

この結果、当期収益は計画額に対し11,234千円の減収となったが、当期費用は各経費の節減等により30,002千円の減少となったことから、事業収支差は計画額を18,768千円上回る19,207千円となり、収支差借入金の一部を計画どおり返済することができた。

II 経営目標の達成状況

1 有料道路事業

令和4年度の福島空港道路の通行台数及び料金収入実績は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、不要不急の外出や移動の自粛、イベント等の開催の中止が継続したことに加え、環境省による県南地区における市町村除染土壌運搬作業の終了に伴い、運搬車両の利用が大きく減少し、通行台数、料金収入とも計画目標値を達成することができなかった。

福島空港道路の通行台数及び料金収入実績表

(単位:台、千円、%)

	実 績		対 比 B/A	計画目標値			達成率 B/C
	令和3年度 A	令和4年度 B		令和4年度 C	令和5年度 D	令和6年度 E	
1日通行台数	1,222	1,092	89.4	1,118	1,499	1,513	97.7
年間通行台数	445,935	398,720	89.4	408,200	547,100	552,200	97.7
年間料金収入	149,974	127,215	84.8	128,199	176,200	178,000	99.2

※原発避難者及び母子避難者等、災害支援従事車両の無料措置通行台数を除く。

III 主な施策及び具体的な取組の評価

I 有料道路事業

福島空港道路

1 有料道路の利用促進

利用者へ安全で安心な有料道路を提供するため、料金所ブースや管理事務所等の施設における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に徹底して務めた。

また、料金所ブースにおけるトラブルを防止するため、機器修繕や案内看板の光源交換等の修繕を実施した。

(1) 地域と連携したPR活動の展開と新規利用者の開拓

- ①沿線地域で開催される産業祭や北関東圏で開催されるイベント等でのPR活動の実施については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施予定3件の沿線地域の産業祭や各種イベントの開催がすべて中止となったため、実施できなかった。
- ②ホームページに有料道路の利用効果や回数券利用のPR、沿線地域イベント情報等を盛り込んだ観光情報等を掲載した。また、料金収受員の接遇研修を行い窓口における接遇の向上に努めた。
- ③沿線の企業等の訪問活動による利用の拡大として、コロナ禍など厳しい状況の中、利用者の回復、拡大を図るため、沿線地域の宿泊施設(1施設)、道の駅(2施設)、企業(4事業所)への訪問による、回数券の販売広報や広報チラシの配付等による利用促進のためのPR活動を実施した。

2 利用者の安全・安心の確保

(1) 道路施設等の計画的な維持管理

① 適時適切な道路パトロールの実施

定期及び臨時の適時・適切な道路パトロールを実施し、利用者の安全な通行の確保に努めた。

② 舗装修繕、道路清掃及び除雪等の適切な実施

損傷の進行した9箇所、延長216.4mについては、舗装補修を実施し、舗装の健全化と通行の安全確保を図った。

また、道路の維持管理（除草、側溝清掃、舗装の応急穴埋めや早期修繕、冬期間の雪氷対策等）を実施した。なお、維持・管理費用のうち雪氷対策費については、暖冬のため除雪作業や凍結抑制剤の散布作業回数が見込みより少なかったことにより、大きく減少した。

(2) 災害時・緊急時の体制の確立

① 緊急時における連絡体制、警報待機体制の確立

年度初めに公社内における緊急時の連絡体制及び警報待機体制を更新した。

また、福島県と連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策と職員等に発症者が生じた際の維持管理体制等の対応を定めた「感染拡大対策ガイドライン」を感染状況の推移に合わせ見直しを行い、感染防止対策を徹底した結果、職員等の発症者は生じなかった。

② 県道路管理者との情報共有化の実施

福島県の関係建設事務所との調整会議、県南地方冬期道路交通円滑化会議等を行い、国、県、市町村等の道路管理者との情報の共有を図った。

3 適切な入札制度・契約制度の実施

(1) 入札方式等の継続実施

① 維持管理業務委託の複数年契約の実施

維持管理業務委託については、令和3年度において「一括契約・共同受注方式」及び「公募型プロポーザル方式」による入札を実施し、令和3年度から令和4年度までの2年間の複数年契約を締結して、経費の節減と入札事務の軽減を図った。

II 有料駐車場事業

1 既存駐車場の利用促進

各駐車場（県内4市6箇所）の定期的な除草・清掃作業を実施し、良好な駐車場環境の確保に努めた。

また、ホームページへの利用者募集や空き情報の提供、現地への募集看板の掲示等により利用の促進を図った。

この結果、橋りょう補修工事の実施に伴い利用が休止となった「あづま陸橋駐車場（福島市）」（休止期間：令和4年12月1日～令和5年3月31日）を除き前年度より稼働率が上回ったものの、駐車場事業全体としては、この休止の影響により前年度と比較し、稼働率、料金収入ともに減少した。

有料駐車場全体の利用台数、稼働率、料金収入実績表

(単位:台、千円、%)

	実 績		対 比 B/A
	令和3年度 A	令和4年度 B	
駐 車 台 数	244	235	96.3
稼 働 率	90.9	87.7	96.5
駐車場料金収入	22,538	21,777	96.6

Ⅲ 道路管理受託事業

1 あぶくま高原道路管理受託事業

福島県との2ヶ年間（令和3年度～令和4年度）の複数年契約に基づき、有料道路と隣接する矢吹IC～矢吹中央IC間及び玉川IC～福島空港IC間の2区間について、「安全・安心・快適な道路環境の提供」を最重点事項として、有料道路区間と一体的な管理を実施した。

Ⅳ 経営の効率化

以下のとおり、各事項とも計画を上回る経費節減に努めた。

1 組織の効率的運営

嘱託職員を再雇用により継続採用し、人材の活用と効率的な運営を図った。

2 管理経費の縮減

令和3年度に更新した凍結抑制剤散布車について旧車両1台を維持経費縮減のための不用決定し、売払い処分としたほか、「エコオフィス自己評価」を継続して実施し、省資源の意識向上を図り、事務用品、印刷物等の事務経費の節減に努めた。

また、ノー残業デー、リフレッシュデーの周知徹底により「ワーク・ライフ・バランス」の向上とともに超過勤務手当の抑制を図った。

3 法令の遵守

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を図るため、「新型コロナウイルス感染拡大対策ガイドライン」を感染状況の推移に合わせ見直しを行い、職員や料金収受員の感染防止対策を徹底した結果、職員等の発症者は生じなかった。

また、インターネットやメール機能環境のセキュリティ強化のため、より安全性の高いサーバーへの移行を実施したほか、各種法令遵守の徹底を図るため、昨年度に引き続き「コンプライアンス自己評価」を継続実施し、個人情報流出やホームページ等の情報セキュリティの確保について職員への指導、徹底を図った。

IV 事業収支結果

令和4年度の当期収益は、有料道路の通行台数等の減少に伴い道路料金収入が984千円、駐車場料金収入は駐車場の一部利用の休止等により1,225千円、受託業務収入が事業数量の変更に伴い9,512千円それぞれ減少したため、計画額を11,234千円下回った。

当期費用は、維持改良費及び受託業務費は、除雪、凍結抑制剤の散布作業回数の減少に伴い計画額を大きく下回った。また、更新予定の道路パトロール車については、半導体不足等を背景に納期を確定できない等の理由により入札が不調となり、令和4年度内の更新を見送ることとした。

道路管理費は電気使用料金や新たな現金取扱手数料の支払等の増加により計画額を上回った、一方、一般管理費は、収入減等により消費税納税額が減少したほか、経常経費の削減をした結果、当期費用全体では計画額に対し30,002千円下回った。

この結果、当期収支差は19,207千円となり、収支差借入金の一部439千円を計画どおり返済し前期繰越金と合わせた51,069千円を次年度への繰越金とした。

事業収支計画・実績対比表

(単位：千円)

科 目		計画額(A)	実績額(B)	差額(B)-(A)	備 考
当期 収益 A	道路料金収入	128,199	127,215	△ 984	
	駐車場料金収入	23,002	21,777	△ 1,225	
	業務雑収入	65	124	59	
	受託業務収入	167,344	157,832	△ 9,512	
	業務外収入	30,000	30,428	428	
	収入計	348,610	337,376	△ 11,234	
当期 費用 B	維持改良費	56,304	41,670	△ 14,634	
	道路管理費	49,135	51,199	2,064	
	駐車場管理費	9,260	7,191	△ 2,069	
	一般管理費	36,080	30,277	△ 5,803	
	業務外費用	30,048	30,000	△ 48	
	受託業務費	167,344	157,832	△ 9,512	
支出計	348,171	318,169	△ 30,002		
当期収支差 (A-B)=C	439	19,207	18,768	・有料道路事業 19,191千円 ・有料駐車場事業 16千円	
償還金(収支差借入金) D	439	439	0		
前期繰越金 E	28,408	32,301	3,893		
次期繰越金 (C-D+E)=F	28,408	51,069	22,661		

○年度末長期債務残高計画 (令和4年度)

(単位：千円)

科 目		計画額 (A)	実績額 (B)	差額 (B)-(A)	備 考
長期債務額 (出資金含)		2,839,056	2,839,056	0	
内 訳	建設 資金				
	政府等借入金	0	0	0	
	福島県出資金	790,000	790,000	0	
収支差借入金		2,049,056	2,049,056	0	

V 当面の課題と今後の取組み

1 有料道路の利用促進

福島空港道路は平成13年3月の供用開始から22年が経過し、道路施設や管理設備等の老朽化や通行台数の増加に伴う道路施設の損傷が進んできていることから、適切な点検を実施し、道路施設等の更新、舗装補修等を計画的に進め、利用者が安心して通行できる道路環境を確保する必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行したことによる観光施設やイベント等の再開による人的移動の回復、増加も見込まれる。

さらに、令和5年度内の供用を目指している、ふくしま復興再生道路の吉間田・滝根線との道路接続一体化の効果等、これらの状況を踏まえ、道路施設・設備の更新及び利用促進のための広報活動の実施について県と協議して進めることとする。

2 有料駐車場の利用促進

駐車場の稼働率向上を図るため、稼働率が低い駐車場において、現地に設置してある駐車場の案内及び利用者募集看板の周知効果改善に向けた更新や区画線、車止め等の環境整備を図るほか、近隣の事業所等への利用者募集チラシの配付などを行い、積極的な募集活動を進めることとする。

3 経営の効率化

第6期中期経営計画の2年次となる令和5年度の経営計画における組織の運営については、プロパー職員の退職者や元県職員の嘱託職員への再雇用による組織体制を継続することにより、専門的で効率的な運営を実施していくこととする。

なお、その他の事務経費の節減や超過勤務などの人件費の縮減等については、引き続き経営計画に基づく取り組みを継続して実施することとする。